

トラフトンボ *Epitheca marginata* (Selys)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は55%、  
現存数は15であり、準絶滅危惧  
に相当する。

【形態】

黒地の体色に橙褐色の斑紋を  
持つ中型のトンボである。♂の  
翅はほぼ透明であるが、♀では  
前縁に黒褐色の帯が発現するこ  
とが多い。

和名は体色の斑紋を虎斑に見  
立てたことに由来する。



♀. 名古屋市千種区田代町, 1952年4月28日, 高崎保郎 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の平野部から丘陵地にかけての  
33市町村で記録されている。

【国内の分布】

本州東北部から九州南部にかけて分布し、  
奄岐等の離島でも記録されている。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに平地から丘陵地にか  
けてのヒシ、ジュンサイなど浮葉植物の豊富  
な池沼で見られる。未熟成虫は、発生地付  
近の空き地や林縁などで摂食飛翔している  
のが見られる。幼虫は、浮葉植物や抽水植  
物につかまっていることが多い。

成虫は4月後半から羽化し、成熟成虫は5  
月を中心に見られるが、成虫の出現期間  
は長くない。1年1化である。

【現在の生息状況／減少の要因】

尾張では平野のほとんどの産地が失われ、  
名古屋市周辺と知多半島の丘陵地に一部現  
存する。西三河と東三河も同様で、平野  
の産地はほとんど絶滅し、丘陵地に少数  
が見られる。

本種はヒシなどの浮葉植物に産卵する  
ので、浮葉植物のない池には生息できな  
い。また産卵の前に行われる交尾時に、  
池の周りのヨシなどの抽水植物に止まる  
性質があるので、抽水植物のない池も  
好まない。池沼の改修等による植生の破  
壊は、本種の存続に致命的となる。さら  
にオオクチバス(ブラックバス)などの肉  
食外来魚が放流されていると幼虫が捕食  
されるようであり、本種が好む植生ある  
池であっても肉食外来魚が多いと、ほと  
んど姿を見られないことが多い。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息域となる岸辺の浮葉・抽水植物の確保
- 2) 成虫の休息域となる水域周辺の林地の確保
- 3) 幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚の移入禁止

【特記事項】

本種の卵はトンボ類の中でも極めて特異  
である。一般的にトンボ類の卵は水中で  
1個ずつばらばらになるが、本種は卵塊  
で産み落とし、まるでヒキガエル卵の  
様にそれが水中で20cm以上のゼラチ  
ン状の卵紐となる。一つの卵紐には600  
個以上の卵が含まれるという。

(吉田雅澄)

県内分布図

